

## 令和7年度 第1回稲毛区区民対話会「地域運営委員会について」議事要旨

1 日 時 令和7年7月25日（金） 14:30～16:00

2 場 所 稲毛保健福祉センター3階 ボランティア活動室2

3 出席者 区 民：7名（A～G）

稲毛区：区長、副区長、地域づくり支援課 課長、他4名

千葉市：市民自治推進課 課長、他2名

### 4 議事要旨

#### （1）地域運営委員会の制度について

市民自治推進課より「地域運営委員会～地域の「助け合い、支え合い」をいつまでも続けていくために～」と題して、制度説明を行った。

#### （2）意見交換

区民G：地域運営委員会の構成団体について、地区によっては20～30団体もあるが、成り立っているのか。また、団体は多い方がいいのか。

区 長：地域運営委員会は各地区で活動している団体の連携が目的である。主要5団体が必須であり、団体が多いほど連携は強まると思う。いまは大丈夫かもしれないが、人口減や高齢化が進む中で、これからは助け合いをしていかないと地域のまちづくりが成り立たなくなっていく。制度の趣旨から見ると、団体が多いほど強固なまちづくりができていくのではないかと考えている。

区民A：地区内のすべての町内自治会や、各団体にぶら下がる組織もすべて入れているところがある。団体が多いと、やることがいっぱいあるような、すごく難しいことに見えるが、地区のことを全体で考えていくということであれば、当然、各団体にぶら下がっている組織も含まれるわけなので、団体名簿等での書き方の問題ではないかと思う。

区 長：最初から大風呂敷を広げてやらないといけないということではない。5団体から始めて、徐々に広げていこうという考えは大いに賛成である。まず、安定した運営を考えていこうというの、進め方の一つだと思う。

区民F：地域運営委員会の趣旨は非常によい。ただ、すでに各団体がそれぞれ課題に取り組んでいるのに、そこで大上段に構えて何なのかと。補助金をもらえるのはいいが、私もAさんも役職を3つ4つ兼務している。団体を整理して1つにするという話なのだろうが、率直なところ「補助金をあげるから頑張ってくれ」という話にも聞こえる。組織を作れば解決するというのではないのか。

市民自治推進課課長：区長も申したとおり、市としては、地域で担い手が確保できないとか、1つの団体では解決できないといった課題に対して、集まって連携する場を設けることにより、横串が通ったような、連携しやすくなる効果があると認識している。それを広めていければ、より地域活動がしやすくなるというのを、手法の1つとして提案している。

区民 F：5つの団体で人が足りないので包括的に6番目の組織を立ち上げるとなると、また兼務が増えるだけなので、どこかスクラップすればいいのではないか。

区民 A：大規模開発といった地域課題はわかっているので、対応する組織を持ちたいという気持ちはあった。開発の事前の段階で、各団体に集まっていただいて意見を伺ったこともあり、地域運営委員会の既存団体パターンのようなことをやっていた。5団体の方から知恵を出していただいて、対応できたと思っている。開発で多くの人が入ってくることに對しては、新しい自治会ができれば対応できると思うが、そこはどうかよくわからない。地区全体の課題であれば、今までやってきたことを継続して、さらに補助金をもらえるのであれば、最小限の手間で最大限の効果があつた方が一番いいと思う。内容的には難しいことではない。H 中学校区では、補助金なしでやっていて、活動は大きくは変わらない。私はせつかくなら補助金を有効活用したいと考えている。資料を見ると、Fさんのように思われるのも当然だと思うが、それぞれの団体はしっかり活動してもらって、全体を見渡して考えていただける場を設けたい。

区民 B：I 地区ではコミュニティづくり懇談会があつて、年に何回か集まっていた。市議会議員も参加して、話し合いが普段から行われていた。地域運営委員会は平均的にそういうことができるようなレベルに上げたいということかと思う。災害対策の場合は、役所との交渉も含めて地域連携がないと、自治会だけでは難しい。普段から話し合いの場があれば、そこで考えを共有していけばいいということだと思ふ。

区 長：2020年に「千葉市市民自治によるまちづくり条例」が施行された。この主たるところは地域運営委員会かなと思つている。市民の方たちが一生懸命頑張ってくれているので、職員も一緒に考えていこうと。地域担当職員が地域に行つて課題に注視して担当部署に繋げる。縦割りではまちづくりができないので、そういった役割を地域担当職員が担つて、横串を刺してまちづくりをしていくということを考えていかないといけない。今から地域運営委員会に取り組んでいく地区と、地域運営委員会を作らないといけない事態が起きてから取り組む地区とでは、内容もまったく変わってくる。今は準備期間・準備段階だと考えるのも、設立を考える一つの理由になると思ふ。

区民 A：条例ができたときにやる予定だったことが、コロナで止まってしまった。役所が重い腰を上げてやろうというのだから、せつかくならやつた方がいいと思ふ。8年ほど前に、設立数が20くらいになったら立ち上げられるように、いつでも準備しておかないといけないということを、5団体の皆さんにご意見を伺つたように記憶している。

区民 E：組織に若い人が入つて考え方が変わり、色々なことが合理的になつてきた。一番の課題は少子高齢化。活動費も課題ではあるが、一番は参加者が少なくなつていること。以前と同じことをやっているわけではないし、工夫もしているが、参加者の年齢が上がっている。定期的にグラウンドゴルフをやっているが、開催場所まで行けないと言われる。それでは近い公園でやろうかと言うと、反対の地区の人から行けないと言われる。分担金で運営していて、物価が上がっているが、工夫すれば活動はできる。ただ、参加者が少ないのは寂しいし、これはお金では解決できない。

区 長：地域運営委員会で解決できるかは別だが、団体の中だけで話し合うのではなくて、他の立場から意見をもらうことができる。

- 区民 E：皆さんのお知恵が欲しいと思う。8年前に A さんの呼びかけでこのような会議を行ったが、愚痴を聞いてもらうだけになってしまった。そのあとはコロナで集まりも少なくなった。
- 区民 B：子ども会の状況は？
- 区民 E：余裕はない。役員は自治会には頼まず、PTA や父兄にお願いしている。その方たちの子どもが参加してくれるという、相乗効果を狙っている。イベントも、10 年ほど前からは PTA と学校の先生、それに団体スタッフで運営している。PTA の方たちも楽しみにしていると言ってくれていて、これを目的に参加してくれた方もいるので、こういう形にしてよかったと思っている。
- 区民 A：マインドの持っていき方だと思う。やらされていると感じるとそうはならない。話を聞いていて参考になる。
- 区民 E：苦肉の策。これしかないと思ってやっている。
- 区民 A：今日のラジオ体操（※「2025 年度夏期巡回ラジオ体操・みんなの体操会」）も目標の 1,000 人を超えたと聞いた。声のかけ方とかにヒントがある。こうしたことを話し合う場があるだけでも違うと思う。
- 区民 C：開発でマンションができると、そこに関わる民生委員に「あなたの担当地区にこれだけの人が来ました。」と、メールが来る。活動がいやだということではなくて、民生委員のなり手がいない中で、責任をどれだけ持てるかという問題。福祉に関わることをなぜ事前に言ってくれないのか。改選の時期にも重なり、今のメンバーでやるのであれば、工夫が必要になる。
- 区民 F：少し補足すると、新たに来る子どもの学区や学校については計画されているらしい。同じように福祉関係も対応が必要になるが、基本的には新しく来られる方の中から作っていくのだろう。最初は外注で、そこから自立していければいい。ただ、子どもは学校が決まっているが高齢者はどうするのかとなったら、「C さんをお願いします」となる。これは開発の話なので、区ではなく市の方で対応を組み立ててもらわないといけない。
- 区民 B：過去にこれだけの規模の経験がないので大変だと思う。こういう場合は企業体が大枠を決めて担保するのが役人。市全体で管理はなかなかできないので、区役所の役割も大事になる。それがさっきの横串の話につながってくるのではないかな。
- 区民 A：開発については何年も前から市に話を聞きにいつている。宅地課が窓口になっていて、例えば介護保険の人がどれくらい来るのかなど、所管課で把握して対応するということがあった。民生委員のことも聞いてみたが、多少は考えているようだった。ただ、民生委員だけではなく、避難所も同じ問題がある。C さんや F さんが言われるように、対応が必要な問題が見えているので、解決のためにこれを受け止める組織を作っていけないといけないと思っている。
- 区 長：皆さんの生の声はすごく大事だと思っていて、一昨年、区役所のあり方の検討を行った。区役所の職員は本庁に真摯に繋げて、声がどういうふうに反映されたかというところまで確認しながら進めていけないといけないと思っている。
- 区民 D：こういう会議に出るようになって、「若手がない」「担い手がない」ということをよく聞く。今日のラジオ体操を見ても、子どもはいっぱい来る。学校でも、保護者は子どものために協力的になってくれる。ところが、役員をやめると関わらなくなってしまう。人のために、みんなのためにという意識が、いまの社会には全体的にない。こうした中で、役員をやってくれる方や、そういう気持ちのある方が出てきて協力してくれるので、多くの人に関わるような機会を

作るのが大事だと思っている。町内自治会の夏祭りも、近隣の人が行くというだけではなく、手伝いや後始末などで協力しようとか、開発についても、醸成活動等をして、地域と関わるような何かを一緒にやりましょうというムードができれば、地域の広がり是可以する気がする。そこにある程度お金が付くとなれば、縁の下の力持ちの方には、少しの御礼とか、何か感謝のものを出せる。見返りが多少あれば、またやりましょうということにもなっていくと思うので、そういうことができる地域運営委員会になれば、次につながると思う。

区 長：まさしくそういうメリットがあると思う。そういったものを皆さんで考えていただいて、そのフォローとして市の職員が入っていければと思う。まず基盤を作ることから始めていただくのが大事ではないかと。民生委員についても、後任が見つからないと聞いている。そうした中で大きな開発がありどうするのかと。これはまさしく生の声だと思うので、私たちも自分事として考えていかないといけない。

区民 F：Dさんがまとめてくれたような話が、目標かなと思っている。

区 長：そうした形に入っていければ、本当にありがたい。

区民 A：役所の説明は固いと思う。もう少し柔軟でやりやすくした方がもっとできると思う。団体によって色々な活動の仕方があるので、「こういう制度があります。制度を有効活用してください。」というような説明をして欲しい。地区連の中で、地域運営委員会のような考え方の会議をやっている。地域運営委員会の制度に則って補助金申請をするとすると、そのための予算編成と、年2回の会議を開催するということになる。開発の件もあるので、引き続きやったほうがいいと思っているが、あとは補助金を申請するかどうかだと思う。基本的には、私はH中学校区と同じパターンでやっていくと思うので、進め方は皆さんで考えていこうと。

区 長：それではどう進めていくのか、職員にお伝えいただいて、一緒に考えていくという形をとりたいと思う。よろしくお願ひしたい。